

平成 21 年 1 月 28 日

本日から「明治女学校 100 年記念展」が始まります

～あなたは知っていますか？100 年前に時代を変えた女学校が豊島区にあった！～

本日、日本女子教育の指導的役割を果たした「明治女学校」廃校 100 年を記念した「明治女学校 100 年記念展」のオープニングセレモニーが、郷土資料館（西池袋 2-37-4 勤労福祉館 7 階）で行なわれた。

この記念展は、地元巣鴨の住民、としま塾（※区内の文化資産の研究、開発、発信をしようとする人たちの集まり）らによる実行委員会が中心となって、100 年目にあたるこの期に、歴史に埋もれている女学校の存在の意義を教育史、女性史、文化・文学史などの観点から扒え直し、関連資料の企画展示や講演会などを行い、「明治期の青春」といわれるあの情熱を検証しようとするものだ。

企画展示、講演会の他にも、記念展関連イベントとして、区内図書館（中央図書館・巣鴨図書館）や、協力書店での関連書籍コーナーの設置、男女平等推進センターでの展示が行なわれる。

また、地元の巣鴨地域文化創造館（巣鴨 4-15-11）でも、「巣鴨村の“明治女学校”に足跡を残した女性たち」といったテーマの展示が 3 月 15 日まで行なわれる。

日 時	平成 21 年 1 月 28 日(水曜日) 午前 9 時 15 分からオープニングセレモニー
主 催	明治女学校 100 年記念事業実行委員会
当日の様子	オープニングセレモニーでは、同実行委員会の粕谷一希氏ら 4 名によって、テープカットが行なわれた。テープカット後には、内覧会が行なわれ、実行委員会代表委員伊藤榮洪氏による展示の説明が行なわれた。伊藤氏は、「教育は教えて育つという意味だけではなく、共に育てるという意味合いもある。その両方があったからこそ明治女学校はあの時代に存続できたのだ」と熱い想いを語った。
記念展詳細	【企画展示】 ■日時：1 月 28 日（水曜日）～2 月 15 日（日曜日）※休館日 2 月 2・9・11 日 午前 9 時～午後 4 時 30 分（初日は午前 11 時～） ■会場：豊島区立郷土資料館（西池袋 2-37-4 勤労福祉会館 7 階） ■入館無料 ■内容：荻原守衛作／「女」石膏像（本邦初公開）、「ディスペア」ブロンズ像、スケッチ、明治女学校関連資料／女学生制服、教科書、古文書 等 【講演会】「明治女学校出身 煙山八重（愛の家初代理事長）の思い出」 ■日時：1 月 31 日（土曜日）午後 1 時 30 分～3 時 30 分 ■会場：男女平等推進センター（勤労福祉会館 4 階） ■入場無料 ■先着順（42 名）・申し込み先：男女平等推進センター TEL5952-9501 「明治女学校を読み解く」 ■日時：2 月 7 日（土曜日） 午後 1 時 30 分～3 時 30 分 ■会場：勤労福祉会館 6 階 ■資料代 500 円・当日直接会場へ（150 名）
明治女学校	千代田区に明治 18 年創立し、同 30 年に巣鴨村庚申塚(注釈 1)に移転、同 41(1908)年 12 月 25 日に廃校した「明治女学校」。キリスト教思想に基づく新しい女性教育を理想とした同校は、北村透谷、星野天知、島崎藤村等優秀な教授陣を揃え、小説家野上弥生子、自由学園を創立した羽仁もと子や平塚らいてうなど婦人運動、婦人教育に影響を及ぼした卒業生も多い。注釈 1) 現在は、特別養護老人ホーム菊かおる園(西巣鴨 2-30-19)がある場所。
写 真 写真はメール で送ります	テープカットの様子  内覧会の様子 
問 合 せ	明治女学校 100 年記念事業実行委員会

《予告》 明治女学校 100 年記念展開催

～あなたは知っていますか？100 年前に時代を変えた女学校が豊島区にあった！～


日本女子教育の指導的役割を果たした「明治女学校」廃校 100 年を記念して、地元巣鴨の住民、としま塾（※）らによる実行委員会が「明治女学校 100 年記念展」を今月 28 日から勤労福祉会館で開催する。

100 年目にあたるこの期に、歴史に埋もれている女学校の存在の意義を教育史、女性史、文化・文学史などの観点から捉え直し、関連資料の展示や講演会などを行い、「明治期の青春」といわれるあの情熱を検証しようとするものだ。

明治女学校とその時代「明治の青春はそこにあった」をテーマに女学校関連資料や、本邦初公開の石膏像などが展示される企画展や、女学校出身の煙山八重の思い出について語る講演会等が行なわれる。それぞれの企画が近代日本の形成を担った「明治の情熱」・「明治の青春」を楽しめる内容となっている。

また、関連イベントとして、区内図書館（中央図書館・巣鴨図書館）や、協力書店での関連書籍コーナーの設置や、男女平等推進センターでの展示が行なわれる。

※区内の文化資産の研究、開発、発信をしようとする人たちの集まり

主 催	明治女学校 100 年記念事業実行委員会	
記念展詳細	<p>【企画展示】</p> <p>■日時：1 月 28 日（水曜日）～2 月 15 日（日曜日）※休館日 2 月 2・9・11 日 午前 9 時～午後 4 時 30 分（初日は午前 11 時～）</p> <p>■会場：豊島区立郷土資料館（西池袋 2-37-4 勤労福祉会館 7 階） ■入館無料</p> <p>■内容：荻原守衛作／「女」石膏像（本邦初公開）、「ディスペア」ブロンズ像、スケッチ 明治女学校関連資料／女学生制服、教科書、古文書 等</p> <p>【講演会】</p> <p>「明治女学校出身 煙山八重（愛の家初代理事長）の思い出」</p> <p>■ 日時：1 月 31 日（土曜日）午後 1 時 30 分～3 時 30 分</p> <p>■ 会場：男女平等推進センター（勤労福祉会館 4 階） ■入場無料</p> <p>■ 申し込み先着順（42 名）・申し込み先：男女平等推進センター TEL5952-9501</p> <p>「明治女学校を読み解く」</p> <p>■ 日時：2 月 7 日（土曜日） 午後 1 時 30 分～3 時 30 分</p> <p>■ 会場：勤労福祉会館 6 階 ■資料代 500 円・当日直接会場へ（150 名）</p>	
明治女学校	<p>千代田区に明治 18 年創立し、同 30 年に巣鴨村庚申塚（注釈 1）に開校、同 41（1908）年 12 月 25 日に廃校した「明治女学校」。キリスト教思想に基づく新しい女性教育を理想とした同校は、北村透谷、星野天知、島崎藤村等優秀な教授陣を揃え、小説家野上弥生子、自由学園を創立した羽仁もと子や平塚らいてうなど婦人運動、婦人教育に影響を及ぼした卒業生も多い。</p> <p>注釈 1) 現在は、特別養護老人ホーム菊かおる園（西巣鴨 2-30-19）がある場所。</p>	 <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">明治女学校石碑</p>
問 合 せ	明治女学校 100 年記念事業実行委員会	

「明治女学校 100 年」記念展

東京都豊島区巢鴨庚申塚で 1908 年 12 月 25 日に閉校した「明治女学校」。
100 年目にあたるこの期に、歴史に埋もれかけている「明治女学校」の存在の意義を、
教育史、女性史、文化・文学史などの観点から捉え直し、関連資料の展示や講演会な
どを行い、「明治期の青春」といわれるあの情熱を検証しようと考えています。

展覧会名 「明治女学校 100 年」展
テーマ 明治女学校とその時代 「明治の青春はそこにあった」

企画展示

荻原守衛作品展示（財団法人礒山美術館所蔵）：「女」石膏像（本邦初公開）・「ディス
ペア」ブロンズ像・スケッチ三葉

明治女学校関連資料展示：明治時代の教科書（横須賀市教育研究所所蔵）・明治女学
校関連古文書（東京都公文書館所蔵）・関連書籍、関連資料 等

期日：2009（平成 21）年 1 月 28 日（水）～2 月 15 日（日）

会場：豊島区立郷土資料館（勤労福祉会館 7 階） 入館料：無料

休館日：2 月 2 日／2 月 9 日／2 月 11 日

開館時間：9：00～16：30（1 月 28 日初日は 11：00 オープン）

※平日午後は説明スタッフが常駐しております。

講演会

期日：2009（平成 21）年 1 月 31 日（土）13：30～15：30

会場：エポック 10 研修室 2（勤労福祉会館 4 階） 参加費：無料

事前受付：42 名 ※申し込み先着順となります／お申し込みはエポック 10 まで

講演：鹿村愛子氏（愛の家施設長）「煙山八重（愛の家初代理事長）の思い出」

講演会

期日：2009（平成 21）年 2 月 7 日（土）13：30～15：30

会場：勤労福祉会館 6 階 大会議室

当日先着：150 名 ※事前申し込みはありません。直接会場へお越し下さい。

資料代：500 円（当日受付にてお支払い下さい）

講師予定：金井景子氏（早稲田大学教育学部教授）「明治女学校を読み解く（仮題）」

関連イベント

エポック10展示（勤労福祉会館3階）「明治女学校の女性たち」
豊島区内図書館にて関連書籍コーナー設置
協力書店にて関連書籍コーナーの設置

問い合わせ：

明治女学校100年記念事業実行委員会

〒170-0012 豊島区上池袋2-19-3 TEL03-5394-8568

E-mail toshima@sa2.so-net.ne.jp

エポック10

〒171-0021 豊島区西池袋2-37-4 勤労福祉会館3・4階 TEL03-5952-9501

豊島区立郷土資料館

〒171-0021 豊島区西池袋2-37-4 勤労福祉会館7階 TEL03-3980-2351

主催 明治女学校100年記念事業実行委員会

後援 豊島区 豊島区教育委員会 長野県安曇野市教育委員会

財団法人としま未来文化財団

協力 財団法人 礒山美術館 横須賀市教育研究所 東京都公文書館

学校法人跡見学園 昭和鋼機株式会社



あなたは 明治女学校を知っていますか？

100年前に時代を変えた女学校があった！

近代女性教育の先駆けとして
1885年に創立された「明治女学校」を知っていますか？
そして、その女学校の最後の11年間は豊島区であったことを・・・
創立から廃校なるまでの23年間、
「明治女学校」は時代に影響を与えた女性達を
次々に送り出しました。
「明治女学校」それは日本が近代化に進もうとする時代に
神様が与えてくれた宝石箱だったのかもしれない。

「明治女学校 100 年」記念展 資料

沿革

1870年（明治3年）、勝海舟の尽力でアメリカに渡航した木村熊二は、1882年（明治15年）宣教師として帰国。横浜の下谷教会の婦人部リーダーだった鎧（鎧子・とうこ）と結婚する。

渡米により近代女性教育の必要性に痛感した木村熊二・鎧夫婦はキリスト教精神に基づいた日本人による女子の高等教育を目指し1885年（明治18年）千代田区番町に「明治女学校」を創立する。

夜ごと鹿鳴館で舞踏会が催され、時代はまさに文明開化の盛りのことである。

当時は、外国のミッションに関係のある女学校経営が主流であったなか、日本人による経営は斬新であった。また教育内容も高度であった。発起人・講師の華やかさを見ても時代がこの学校に寄せる期待をうかがわせた。

創立から2年後、木村鎧がコレラにより急死する。これが「明治女学校」の不運の始まりとなる。後妻に入った女性のスキャンダルにより木村熊二は志半ばで巖本善治に校長の職を譲り、長野に小諸義塾を起こす。

1896年（明治29年）2月5日早朝、校舎を火災で焼失、巖本は重病だった妻・賤子を背負って避難するが、賤子は避難先で不幸にも5日後、息を引き取る。

巖本は学校を存続するために資金集めに奔走、1897年（明治30年）豊島区巢鴨庚申塚の地に移転・再開させる。

結局この移転が財政を圧迫、さらに世相に追われて生徒数が激減したためか1908年（明治41年）ついに廃校となる。

「明治女学校」が、学校としては異例の23年間という短い間に多彩な卒業生を世に送り出した功績はあまりにも大きい。

作家森まゆみは著書の中で「明治女学校」は一瞬に輝いた花火のような学校であると形容している。

歴代校長

初代校長（明治18年～明治24年）：木村熊二

2代目校長（明治25年～明治37年）：巖本善治

3代目校長（明治37年～明治41年）：呉くみ

発起人

植村正久：1858-1925（思想家・キリスト教の伝道者・牧師・神学者・説教家）

田口卯吉：1843-1931（経済学者・木村鎧の弟）

島田三郎：1852-1923（政治家・ジャーナリスト・官僚） 等

支援者

勝海舟：1823-1899（幕臣・政治家・雄弁家）

渋沢栄一：1840-1931（実業家）日本資本主義の父と呼ばれる

大隈重信：1838-1922（政治家・教育者・早稲田大学創立者）

桜井勉：1843-1931（兵庫県出石出身 徳島、山梨、台湾新竹県知事・天気予報の創始者）移転先巢鴨の土地を提供

主な講師

津田梅子：1864-1929（女子英学塾「現津田塾大学」 創立者）

人見銀：（稲垣銀）

星野天知：（小説家・武術家）明治女学校において柳生心眼流體術を教授

富井於菟：（思想家／とみいおと）福田英子（思想家）と懇意にする

島崎藤村：1872-1943（詩人・小説家）

中島湘煙：1864-1901（岸田俊子／自由民権運動の女性雄弁家）

石井筆子：1865-1944（日本初の知的障害者福祉の創始者の1人）

馬場孤蝶：1869-1940（作家・英文学者・翻訳家）樋口一葉の一の理解者、死ぬまで親交は続く

平田禿木：1873-18943（英文学者・随筆家）文學界同人として最初に菊坂の樋口家を訪れ、一葉の心に文学の灯火を点じた

戸川秋骨：（翻訳家・随筆家）一葉には好意的で通夜から葬儀まで斉藤緑雨と協力し取り仕切っている。

内村鑑三：1861-1830（キリスト教思想家・文学者・伝道者・聖書学者）

若松賤子：1864-1896（翻訳家／巖本善治の妻）小公子の翻訳で人気を博す

北村透谷：1868-1894（詩人）島崎藤村らに大きな影響を与えた

川井運吉：明治33年学校の寄付金集めのために渡米・荻原守衛が同行する

青柳 有美：1873-1945（ジャーナリスト・随筆家）女性・恋愛問題、性についての著作が多い

その他

日本女医第一号の荻野吟子 1851-1913 が講師と校医また舎監として関わっている

彫刻家の荻原守衛（碌山） 1879-1910 は巖本善治に許しをもらい明治女学校の敷地内に住む

主な卒業生

相馬黒光：1876-1955（新宿中村屋創立者）

野上弥生子：1885-1985（作家）

羽仁もと子：1873-1957（自由学園創立者）

斉藤冬：（冬子）-1895 北村透谷を慕う・宮城女学校時代黒光の上級生

佐藤輔子：1871-1895 島崎藤村退職の原因となる

五島千代槌：（後に明治女学校の再校を期して巣鴨に晩香女学校を創立）

煙山八重：1881-1955（愛の家創設者）

山村機恵子：1876-1916（救世軍山村軍平の妻）

広瀬恒子：（詩人／教師）保母として活躍、上州一円の幼稚園のモデルを作った

大塚楠緒子：1875-1910（詩人／小説家）

清水紫琴：1868-1933（小説家）

津田まり子：津田梅子の妹

吉松ます：（女性民権家）

松井まん：星野天知と結婚

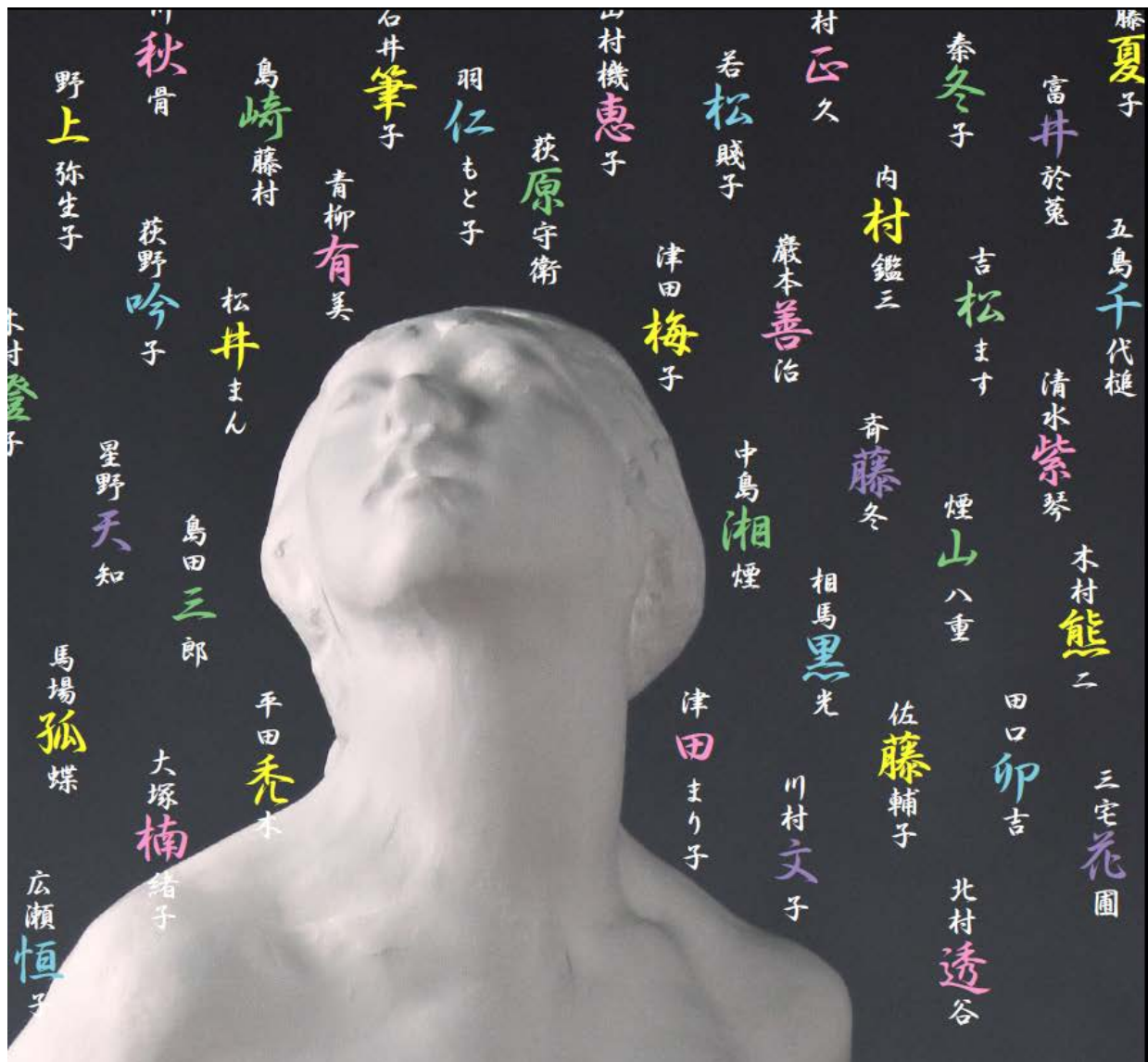
三宅花圃：（田辺龍子・田辺花圃）女性による最初の近代小説「藪の鶯」を書いた、三宅雪嶺夫人 伊藤夏子とともに樋口一葉の親友

小金井喜美子：1871-1956 森鷗外の妹、人類学者小金井良精と結婚、女流翻訳家の草分け

川村文子：（川村学園創立者）

秦冬子：1823-1899 函館の網問屋秦慶治の次女、島崎藤村と結婚する

横川豊野：1883-1963 大正～昭和期の社会事業家で明治 35 年に卒業



膝夏子

五島千代槌

富井於菟

清水紫琴

木村熊二

三宅花園

秦冬子

吉松ます

煙山八重

田口卯吉

北村透谷

村正久

内村鑑三

奇藤冬

相馬黒光

川村文子

若松賤子

津田梅子

中島湘煙

津田まり子

山村機恵子

荻原守衛

羽仁もと子

石井筆子

青柳有美

鳥崎藤村

松井まゐ

鳥田三郎

平田禿木

川秋骨

荻野吟子

星野天知

大塚楠緒子

野上弥生子

馬場孤蝶

広瀬恒子

明治女学校とその時代「明治の青春はそこにあった」

「明治女学校100年」記念展

平成21年1月28日(水)～2月15日(日)

豊島区立郷土資料館(勤労福祉会館7階) 入館無料

●講演会:平成21年1月31日(土)13:30～15:30

「母子福祉に尽くした煙山八重の思い出」講師:鹿村俊子氏(後の作家)
男女平等推進センター(エポック10)研修室2(勤労福祉会館4階)
※事前受付が必要です 定員42名 入場無料

●講演会:平成21年2月7日(土)13:30～15:30

「明治女学校を読み解く」講師:金井景子氏(早稲田大学教育学部教授)
勤労福祉会館6階 大会議室(当日先着150名) 資料代500円

●パネル展示:平成21年1月28日(水)～2月15日(日)

「明治女学校の女性たち」エポック10(勤労福祉会館3階)にて

主催:明治女学校100年記念事業実行委員会 後援:豊島区/豊島区教育委員会/長野県安曇野市教育委員会/財団法人としま未来文化財団
協力:財団法人岡山美術館/昭州備後株式会社/横須賀市教育研究所

荻原守衛(礫山)作
「女」石膏像
本邦初公開